



長居検査員。おはようございます。
今日は、『コンクリート構造物の施工上の留意点』
について、紹介していただきたいのですが？

はい。コンクリート構造物は、供用期間を通して、
その機能を良好な状態に保たなければなりません。
すなわち、コンクリート構造物の耐久性を向上させること
です。C o 構造物の耐久性を高めるためには、
特に、施工時に有害なひび割れ等を含む“初期欠陥”を
防ぐことが重要であり、耐久性の向上を図るための
C o 構造物の品質確保に向けた取り組みが大切となります。



ちなみに、コンクリート構造物の品質確保に向けた
取り組み事例はありますか？

農林水産部の重要構造物のみだと思いますが、
『生コンクリート打設確認シート』の活用事例を
紹介しましょう。



『確認シート』のチェック項目は、
主にどのような区分となっていますか？

施工段階別として、
① 準備段階、 ② 運搬段階、 ③ 打ち込み段階、
④ 締固め段階、 ⑤ 養生段階、
以上の5段階に、区分されています。



それでは、それぞれの施工段階毎の
主なチェック項目を教えてください。

まず、①の“準備段階”の主なチェック項目としては、
1) 型枠内部への異物が無いこと。
2) 所定かぶりの確保と、かぶり内に結束線が無いこと。
3) 発電機やバイブレータの事前チェック(予備パイプの確保)
4) C o 打設作業員に余裕を持たせていること。



準備段階から、そこまでチェックするんですね。

次に、②の“運搬段階”は
1) 練混ぜてから打ち終わるまでの時間の確認。のみです。
ちなみに、『外気温 25℃を超えて 1.5時間以内、
また、25℃以下で2時間を超えないこと。』です。



練混ぜてからC o 打設完了までの時間については、
受・発注者共に、皆さん理解しているようですね。

次に、③の“Co打込段階”の主なチェック項目としては、
1) 垂直に打設しているか。打設済Coを横移動させていないか。
2) 一層のCo高は、40～50cm以下か。
3) Co吐出口とCo打込面までの落下高は、1.5m以下か。
4) 上層の打込は、下層Coが固まり始める前に行っているか。



お願いしておいて、申し訳ございません。
その他に④締固め段階と⑤養生段階の二つがあると思いますが、
農林水産部で使用している『生コンクリート打設確認シート』
の様式を、具体的に拝見したいのですが？



分かりました。
それでは、別添資料のとおり、その様式を、紹介します。



農林水産部は、なぜこの様式を活用したのですか？



農林水産部では、H22年度において、
H21年度の対象構造物 86件を一斉調査した結果、
クラック発生が“1/4強”も発生していることが判明しました。
そのため、施工上の不注意によるクラック発生対策の徹底を図る
ため、この『生コンクリート打設確認シート』を活用しています。



その『生コンクリート打設確認シート』を活用した結果、
現場等では、どのような変化が見られましたか？

ある先輩監督員から、『橋梁下部工施工時に、現場代理人と
“確認シート”をチェックしながらの作業には苦労したが、
経験したことのない素晴らしい出来ばえとなった。』との感想。
また、消波ブロック製作の中間検査時に、出来ばえが良くなった
ことから、前回までとの違いを伺ったところ、
『“確認シート”を活用した結果。』との回答がありました。



次回は、『コンクリート構造物施工時に発生する不具合』
について、具体的な事例を紹介します。



●本日のポイント

今回、農林水産部が活用している『生コンクリート打設確認シート』の
様式を紹介いたしました。

なお、重要構造物のCo打込にあたり、活用した多くの現場代理人から、
『これまで経験したことのない素晴らしい出来ばえとなった。』との感想
を頂いております。

【登場人物の設定】

○福島県 出納局 工事検査課



：長居(ながい)検査員



：若井(わかい)検査員